

阿蘇火山における地球化学的観測 Geochemical observation at Aso Volcano

九州大学大学院理学研究院 地震火山観測研究センター
Institute of Seismology and Volcanology, Faculty of Sciences, Kyushu University

九州大学地震火山観測研究センターでは、垂玉温泉山口旅館本湯における温泉観測を、通常月に1回程度の頻度で実施している。観測源泉は中岳火口から、南西約5 km に位置しており、含硫黄-カルシウム-炭酸水素塩泉（硫化水素型）に分類される。

2011年1月以降の観測結果を、孤立型微動日別回数（気象庁資料）とともに図1に示す。（孤立型微動回数は、2014年11月末以降、火山性微動振幅が大きいため、計数困難となっている。）

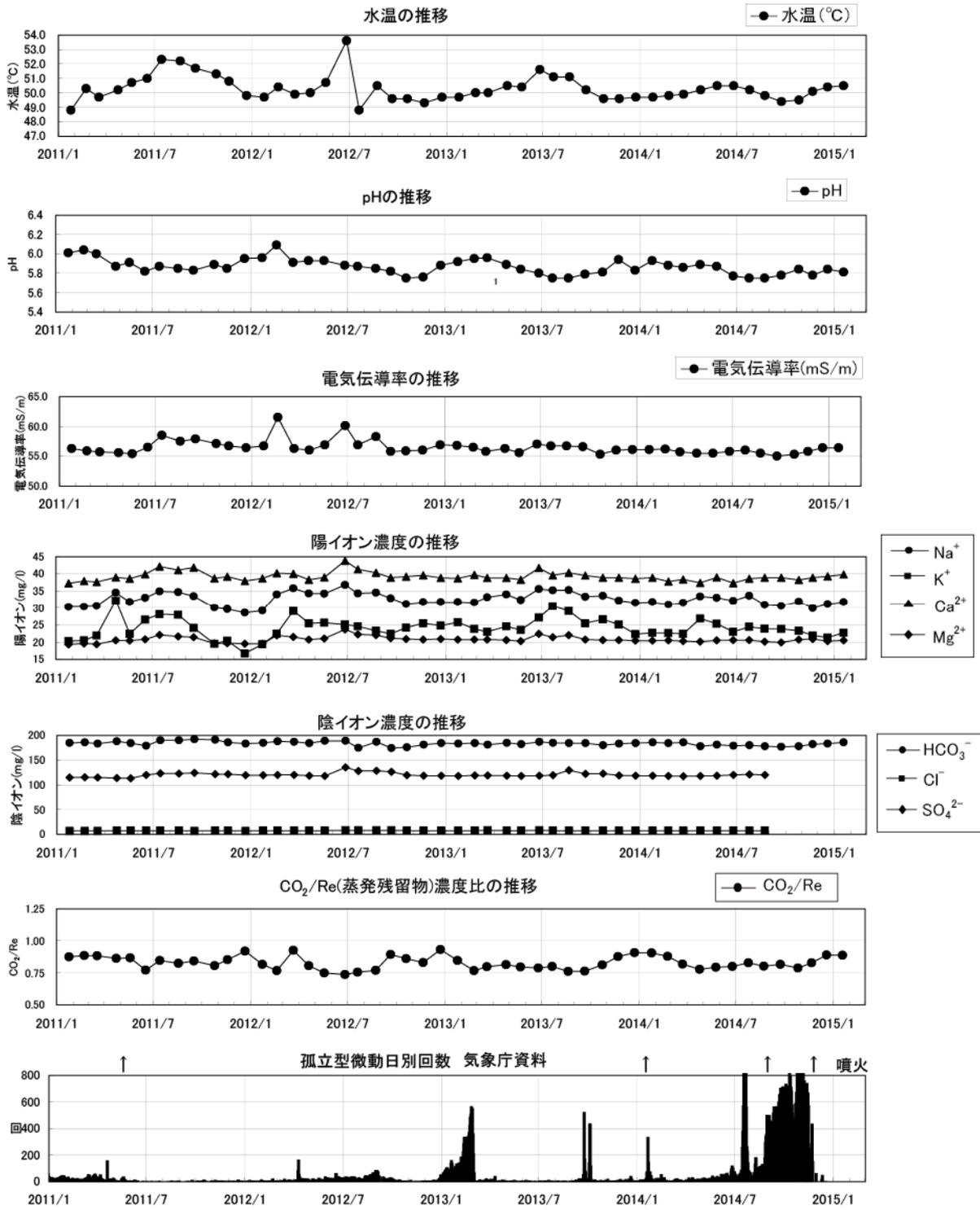
垂玉温泉の水温は、2011年2月頃から上昇傾向に転じ、変動はあるものの、やや高い状態で推移して、現在に至っている。

溶存二酸化炭素相対濃度（二酸化炭素濃度 / 蒸発残留物濃度）は、2013年10月頃から上昇傾向を示し、2014年1月頃をピークに、4月頃には通常レベルまで低下した。

マグマ噴火に移行した2014年11月頃から、水温及び溶存二酸化炭素相対濃度は、上昇傾向を示している。僅かながら、溶存イオン量も増加している。

* 2015年4月19日受付

** 福井理作・清水 洋



第 1 図 垂玉温泉山口旅館(本湯)の水温・pH・電気伝導率・主要化学成分濃度・CO₂/Re(蒸発残留物)濃度比の推移(2011年1月～)。孤立型微動日別回数は気象庁資料。

Fig.1 Changes in temperature, pH, electrical conductivity, main chemical component concentration and CO₂/Re (evaporation residue) concentration ratio at Yamaguchi Japanese Inn (Motoyu) of the Tarutama hot-spring (January 2011~). Daily number of the isolated tremor is from the JMA.